

## 東京国際空港（羽田空港）の新しい滑走路（D滑走路） ～連絡誘導路棧橋部ジャケット据付完了～

### トピックス

東京国際空港（羽田空港）の4本目の滑走路（D滑走路）『連絡誘導路部』の建設工事においては、平成20年3月25日に連絡誘導路部ジャケット全40基のうち第1基目のジャケットを据え付けて以来、11月15日に第14基までの据付が完了し（約35%の進捗）、D滑走路本体と現空港を結ぶ連絡誘導路橋〔棧橋部〕の基礎施工が完了しました。

連絡誘導路部は、延長620mで橋梁部と棧橋部からなり、連絡誘導路（幅63m）及び場周道路（幅10.8m）がそれぞれ南・北に2本ずつあります。連絡誘導路の基礎となるジャケット1基当たりの大きさは、幅63m×長さ30m×高さ11～23m、標準部での重量は約700tの鋼構造物（上部桁+下部パイプトラス構造）です。

連絡誘導路棧橋部は平成20年3月9日のジャケット基礎杭の打設を皮切りに、平成20年3月25日のL8南側のジャケットを据え付け（第1基目）、新滑走路島側（沖側）から既設の現空港島に向かって基礎杭打設（先行杭）→ジャケット据付→基礎杭打設（後行杭）→グラウトによるジャケット～基礎杭間接合工のサイクルにて順次施工を行ってきました。

引き続き、連絡誘導路棧橋部においてはプレキャストPC受梁及びプレキャストPC床版（以下、Pca床版）の架設・連結・一体化を進めていき、既設の現空港島へと施工を展開していきます。

また、今後は新滑走路島棧橋部と連絡誘導路〔棧橋部〕を接続する連絡誘導路〔橋梁部〕への施工に入っていきます。連絡誘導路〔橋梁部〕は、延長約260m、片側4基のジャケット上に鋼製上部桁<sup>※1</sup>、Pca床版を据え付け、連絡誘導路〔棧橋部〕～〔橋梁部〕間を伸縮装置<sup>※2</sup>により、連絡誘導路橋梁部～新滑走路島を渡り桁及び伸縮装置により接続して1本の連絡誘導路を完成させます。

1：17本の鋼主桁（橋軸方向）に水平方向の鋼製横桁を組み合わせた鋼製の箱桁

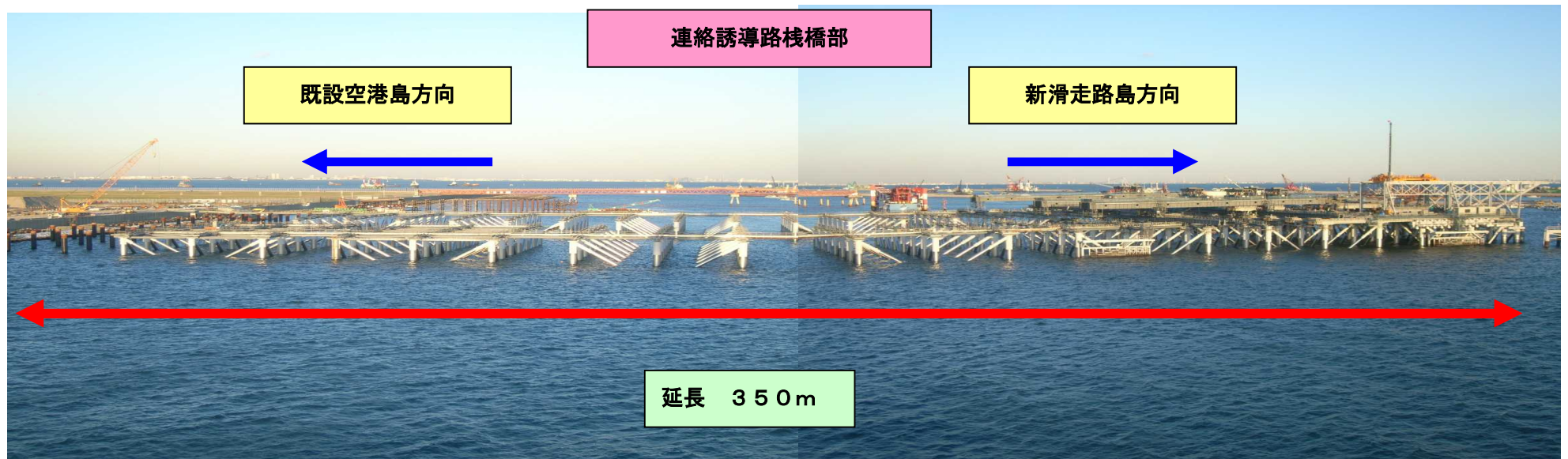
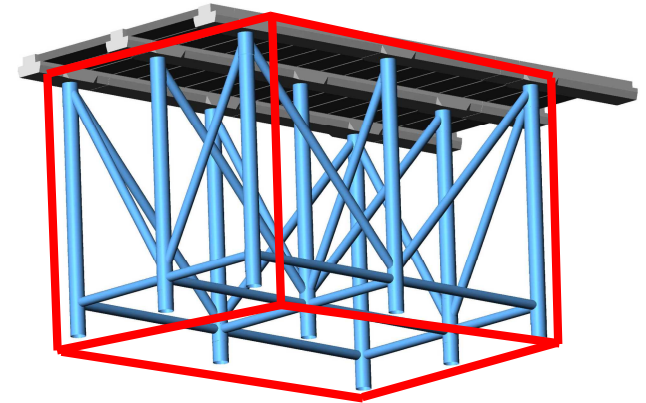
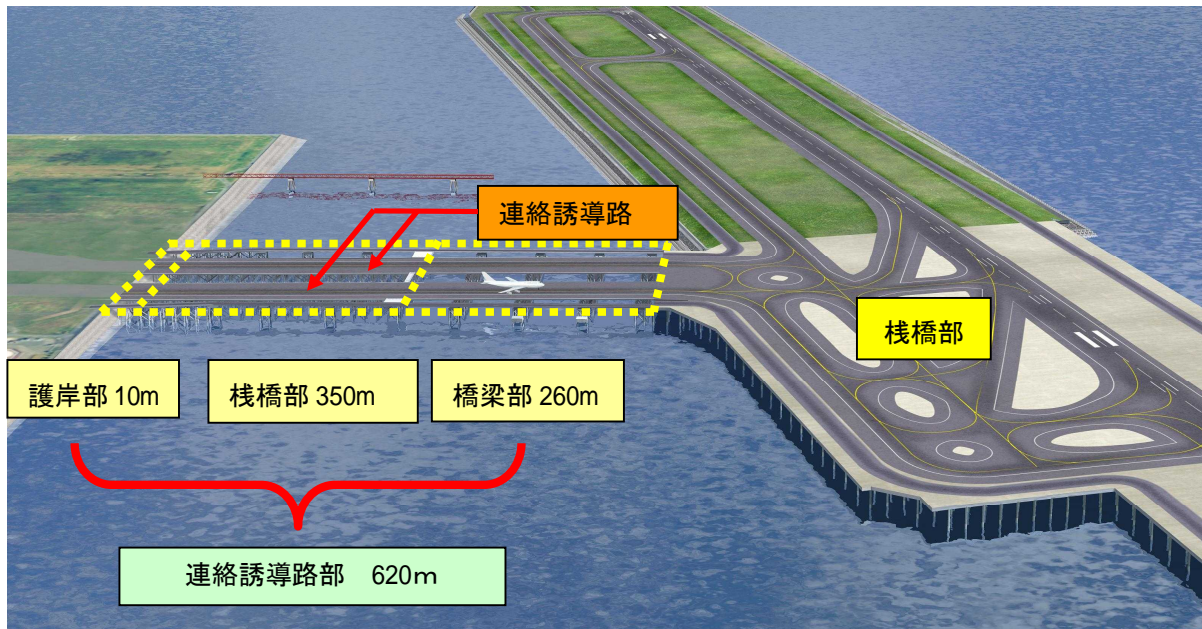
※2：棧橋及び橋梁の温度変化による乾燥収縮や地震時の振動、航空機の常載荷重等に追随することにより外力を吸収して各構造物の破壊を抑制する装置

平成20年11月25日  
国土交通省 関東地方整備局 東京空港整備事務所

#### 問い合わせ先

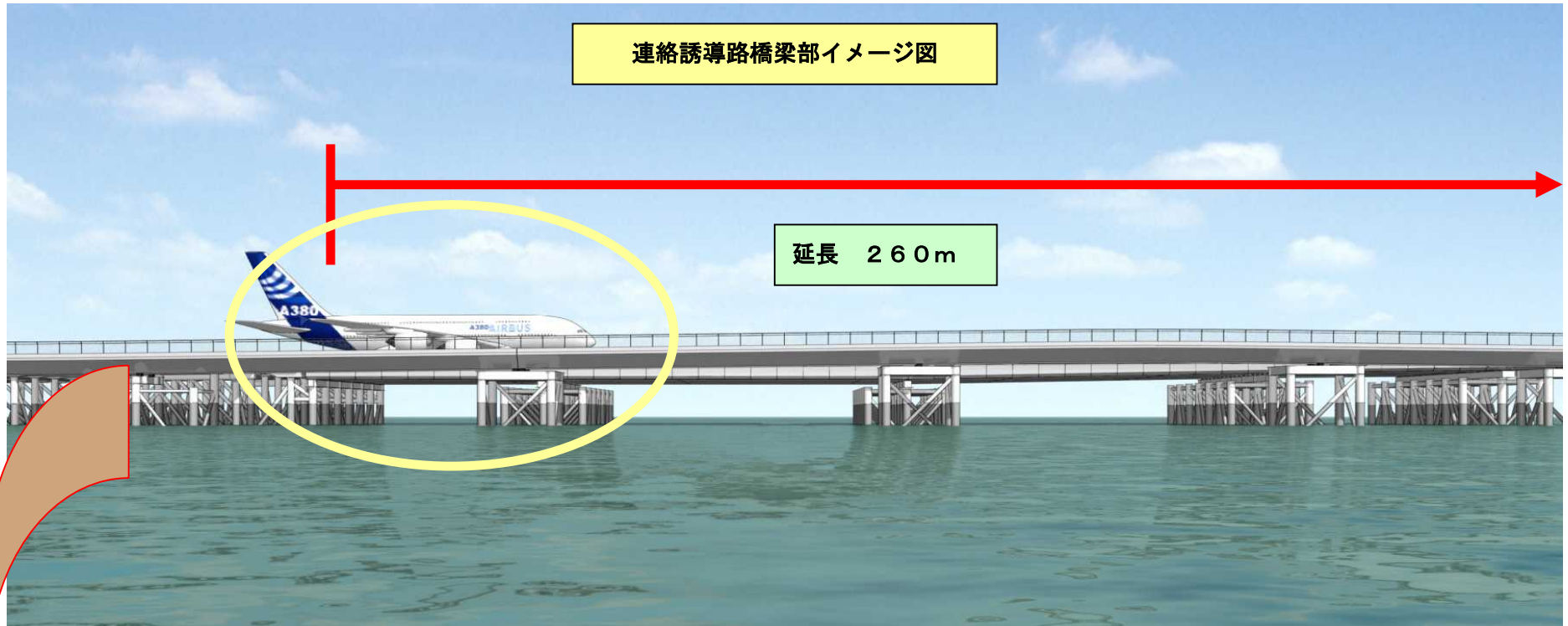
国土交通省 関東地方整備局 東京空港整備事務所 D滑走路プロジェクト推進室 きたがわ うらの かばしま  
住所 東京都大田区羽田空港3-5-7メンテナンスセンターアネックス5階  
電話 03-5756-6580  
HP <http://www.pa.ktr.mlit.go.jp/haneda/>

# 連絡誘導路棧橋部のジャケッ



# 連絡誘導路橋梁部

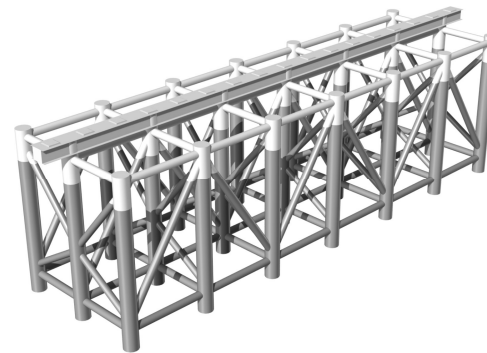
連絡誘導路橋梁部イメージ図



延長 260m



拡大図



連絡誘導路橋梁部 ジャケット

## 連絡誘導路橋梁部 ジャケット1基の規格

- ・重量 (標準型) : 約 1,100 t
- ・寸法 : W約 56m × L15m × H約 17~約 20m
- ・レグ本数 (標準部) : 18本